

鳥取の民話

5

収録・解説 酒井董美

語り手 名越雪野さん
(明治40年生まれ)
昭和54年9月17日収録

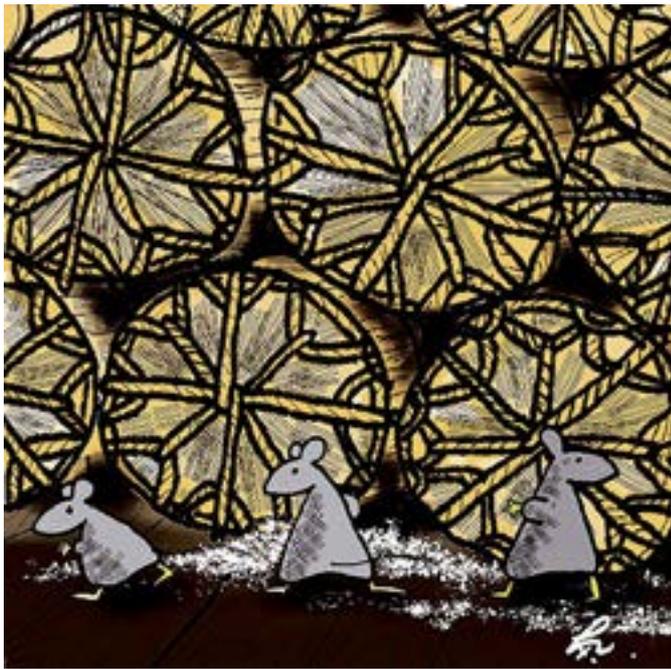
あらすじ

昔々、大きな長者があった。その長者は非常に昔話が好きだった。長者の一人娘に婿を取ることにしたが、あたりにには適当な婿がいなかったので、立て札を出して、「長者に婿がいる。昔話をたくさん語り、これでええもつ飽いたというほど語った者を婿にする」と書いておいた。

道中の者が「あの長者の婿になれるのなら、おれも昔話なら相当知ってる」と、「この立て札を見て来た者ですが」と言ったら「どうせ、どうせ」と奥の間に通つて、長者

難題婿

(倉吉市湊町)



イラスト・福本隆男

人は知恵がないといけな

は今日も今日もと1週間、やむを得ずに昔話を聞いた。そうしたら1週間で済んでしまったが「もう、

ええ」とは言わないので、目かに、半年も語ったが、その男はだめだった。次ややはり長者は「こつでいの人も「昔話は相当知ってる。飽きるほど言った困ってしまった。もう根れ」と語り始めたが、10日で済んでしまった。3人が、一つ思い出した。そ

それは名和長年が後醍醐天皇を迎えたときに、蔵の中に米をどっさり積んで話した。二十日鼠がついた。二十日鼠というものは、小さなものなので、1粒くわえてチヨロチヨロと逃げて、また1粒くわえてチヨロチヨロと逃げ…と1年も同じことを言った。とつとつ「まだ済まんか」と長者が怒り出した。び」といのがあり、次

解説

人はこのように知恵がないといけなというこです。

「たくさん蔵に米が積んであり。10年経つたて。」「蟻が倉に入り、米を食べて逃げた。」「男よと運ぶ。また一粒つかは「二十日鼠がチヨロチヨロんでは…」
チヨロ、1粒くわえてま 名越さんの話は、このた逃げた。また、こそこ 手法の語りであり、それを来て、チヨロチヨロとと本格昔話の難題婿の話くわえてチヨロと逃げ 型がうまく複合してできた」とやっぱり何力 た話であるといえる。県月も言った。「まだ済 博物館ホームページで、まんか「まだまん、 快活に語られる名越さんとてもとても」とつとつ の名調子を味わっていたし、最後に長者は「こつで だきたい。」
ええ」と言われ、その男 (元鳥取短期大学教授) がその婿になったのだ (水曜日に掲載)